

問い合わせ先

(EY India 駐在)

松田 博司・城市 武志・

小林 祐介・早坂 周子・

中原 孝博・本山 禎晃

(EY Japan 駐在)

ニラドリ・ナグ・黒田 景子

アーンスト・アンド・ヤング・インド、  
ジャパン・ビジネス・サービス

Email:

[hiroshi.matsuda@in.ey.com](mailto:hiroshi.matsuda@in.ey.com)

[takeshi.joichi@in.ey.com](mailto:takeshi.joichi@in.ey.com)

[yusuke.kobayashi@in.ey.com](mailto:yusuke.kobayashi@in.ey.com)

[shuko.hayasaka@in.ey.com](mailto:shuko.hayasaka@in.ey.com)

[nakahara.takahiro@in.ey.com](mailto:nakahara.takahiro@in.ey.com)

[sadaaki.Motoyama@in.ey.com](mailto:sadaaki.Motoyama@in.ey.com)

[nag.nldr@shinnihon.or.jp](mailto:nag.nldr@shinnihon.or.jp)

[kuroda-kk@shinnihon.or.jp](mailto:kuroda-kk@shinnihon.or.jp)

# JBS フラッシュニュース

2015 年 9 月号

1. **【投資】**プレスノート8を公表、FDIポリシーの枠組みを簡素化
2. **【税務】**改定特別インセンティブパッケージスキーム(M-SIPS)の適用期間延長及び対象品目/業種の追加
3. **【税務】**企業所得税申告書の様式の変更を公表
4. **【投資】**Make in India: 食品加工業界の動向



# EY

Building a better  
working world

先のモンスーン国会の審議は野党に阻まれ、GSTの憲法修正案は通過しないまま、8月13日閉会となりました。今後は、臨時国会の開催の可能性を含め、冬季国会へ向けての取り組みに注目が集まります。本稿では、FDIポリシーの枠組みの簡素化、M-SIPSの改定、企業所得税申告書の様式変更等を取り上げます。また、Make in Indiaシリーズとして、今月は食品加工業を取り上げます。国内42カ所に食品産業の大規模集積地「メガフードパーク」の設置が承認され、2019年までに全て稼動する見通しとなっており、さらなる発展が期待されています。

## 1. インド政府はプレスノート 8 を公表、FDI ポリシーの枠組みを簡素化

このたびインド政府の産業政策推進局(商工省)が発行したプレスノート8では、2015年5月12日に公表された統合版FDIポリシーの改正が伝えられています。プレスノートでは、外資誘致のため、FDIポリシーの枠組みを簡素化し、当該ポリシーにおいて、外国直接投資(FDI)と外国ポートフォリオ投資(FPI)を統合し、合算ベースで単一出資上限を導入しました。

この改正により、これまでの外国ポートフォリオ投資(FPI)と外国直接投資(FDI)で個別に設けていた出資上限規制はなくなります。ほとんどすべての産業分野で合算ベースでの出資上限の適用が可能となり、海外投資家に大きな便益をもたらすこととなります。これは、政府が海外投資家を優遇するために導入した開放政策のひとつであり、特に債券や証券を購入し、配当や株の値上り益を目的とする海外のポートフォリオ投資家(FPI)がインドの上場企業に対する投資を増加させることが期待されています。

本年7月30日から施行となっています。詳細は以下のリンクをご参照ください(英語版のみ)。

[http://dipp.nic.in/English/acts\\_rules/Press\\_Notes/pn8\\_2015.pdf](http://dipp.nic.in/English/acts_rules/Press_Notes/pn8_2015.pdf)

## 2. 改定特別インセンティブパッケージスキーム(M-SIPS)の適用期間延長及び対象品目/業種の追加

本稿は、通信情報省(電子情報技術局)によって、2015年8月3日付の通達 27(35)/2013-IPHW で公表されたM-SIPSへの改定を要約したものです。

M-SIPS政策は、中央政府によって2012年7月に導入されたもので、電子機器設計製造分野(ESDM)への投資奨励を目的として、新規設立や追加投資を行う対象のメーカーやサービス提供者に、各種優遇措置を提供しています。

改定されたM-SIPS政策は、優遇措置の対象となる品目/業種を追加することで、スキームの範囲を拡大することを目指しています。また、元々の申請期限は2015年7月でしたが、改定スキームで申請期限は、5年間、適用期間延長となりました。様々な企業が当該スキームの優遇措置を受けるための改正後の投資基準額も規定されています。

M-SIPSの対象となる電子システム設計・製造(ESDM)業界の追加リストや、改定された投資基準額及び財政優遇策の附属文書については以下をご確認ください。

[http://www.ey.com/Publication/vwLUAssets/Enclosure\\_1.pdf/\\$FILE/Enclosure\\_1.pdf](http://www.ey.com/Publication/vwLUAssets/Enclosure_1.pdf/$FILE/Enclosure_1.pdf)

## 3. 直接税中央委員会(CBDT)が企業所得税申告書の様式の変更を公表

本稿は、CBDTによって、2015年7月29日付の通達 61/2015 で公表された、2014-15 課税年度における所得税申告書(ITR)の様式の変更を要約したものです。

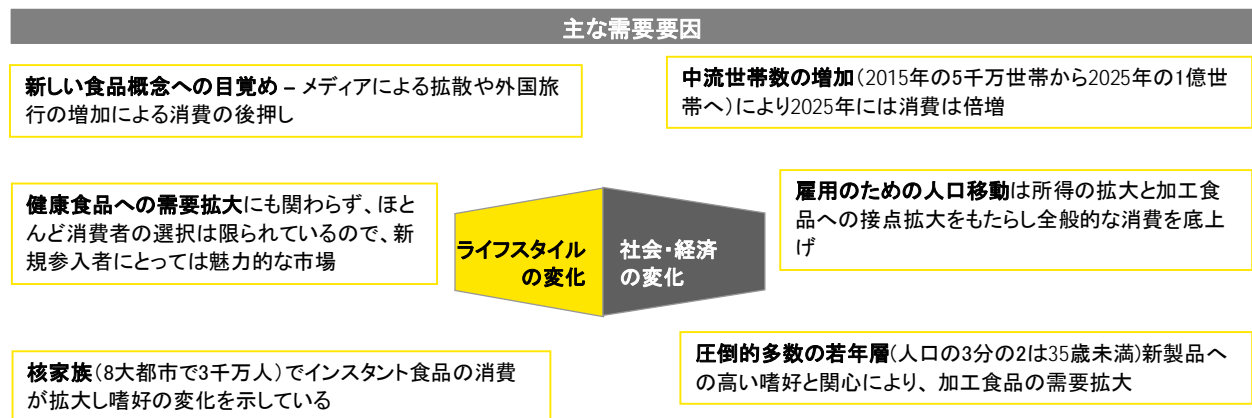
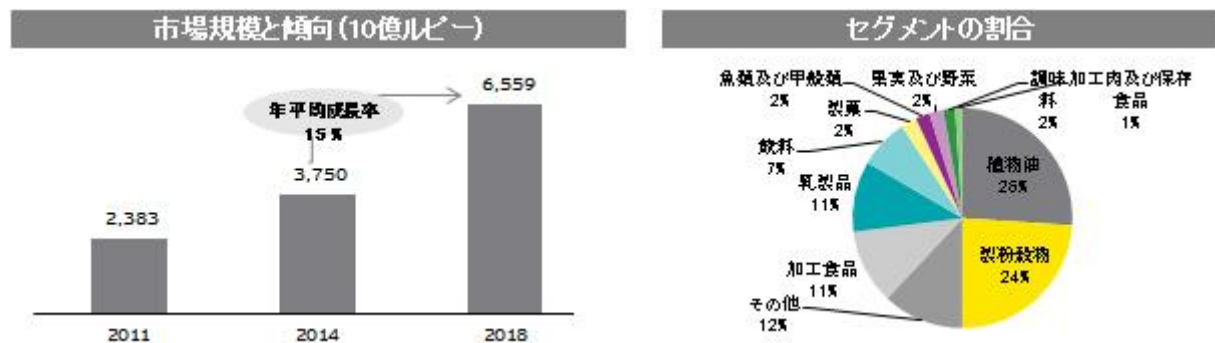
通達は、ヒンドゥー不分割家族(HUF)、合資会社、有限責任事業組合(LLP)、個人の組合及び協会 (Association Of Persons (AOP)、Body Of Individuals (BOI))、共同組合、法人、会社、信託が適用すべき ITR3、ITR4、ITR5、ITR6 および ITR7 を通知しました。

新しい申告書様式の ITR 3 から ITR 7 で行われた変更の多くは、個人および HUF の所得税申告書の ITR 1 及び ITR 2 で 6 月に行われた変更と類似しています。

さらにこれらの申告書様式にいくつかの変更点があるため、2014-15 課税年度の申告において納税者は留意する必要があります。

#### 4. Make in India: 食品加工業界の動向

ライフスタイルと社会経済情勢の変化を追い風に、食品飲料市場は2018年までに3.8兆ルピーから6.5兆ルピーに拡大との予測(年平均成長率15%の場合)

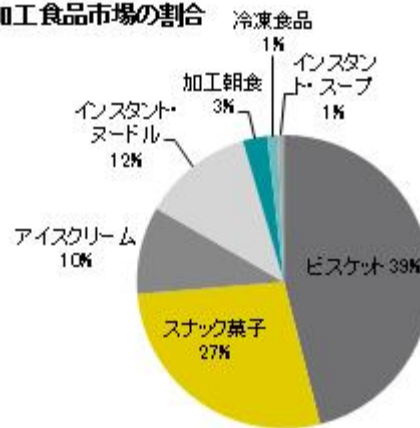


## 加工食品市場

加工食品市場の予測(10億ルピー)



加工食品市場の割合



- ▶ インドの加工食品市場は4,150億ルピーで年平均成長率15%と見込まれている
- ▶ セグメントの主要プレイヤー
  - 国内: Britannia, Parle, ITC, Haldiram's, Venky's
  - 海外: Cadbury, Nestle, Kelloggs, HUL

### 新たな傾向

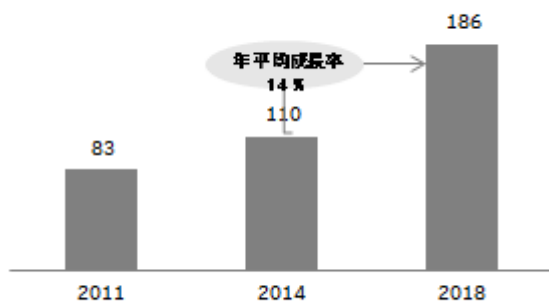
- ▶ 消費者のライフスタイルの変化(共働き、核家族、西洋化)がセクターの成長に影響を与える
- ▶ ハーブ、ビタミン、オメガ3脂肪酸などの機能成分への意識の高まりから、カテゴリー全体で機能性食品のニッチ・セグメントが拡大

### 主な課題

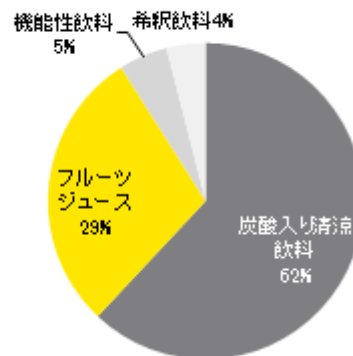
- ▶ 特に近代物流インフラ(物流パーク、コールドチェーン、ラストマイル接続)の欠如などの不十分なインフラ設備

## 飲料(ノンアルコール)市場

飲料市場の予測(10億ルピー)



インド飲料市場の競合シェア



- ▶ インドのノンアルコール飲料市場は1,100億ルピーで年平均成長率 14%と見込まれている
- ▶ 炭酸飲料市場は、外国のプレイヤーが圧倒的なシェアを誇るけれども、国内のプレイヤーは、果物を中心とした香料のある飲料で競争優位に立つ
- ▶ セグメントの主要プレイヤー
  - 国内: Dabur, Parle, Godrej
  - 外国: Coca Cola, Pepsico, Redbull

### 新たな傾向

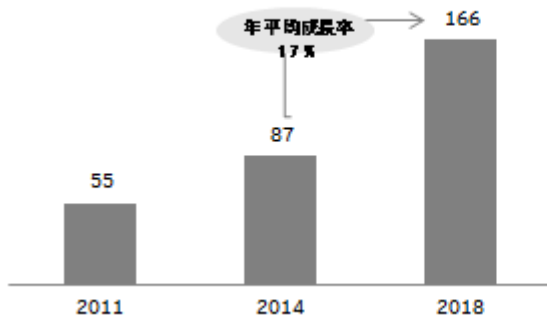
- ▶ インドのノンアルコール飲料市場は、多国籍企業から多大な投資が継続するものと見込まれる
- ▶ 都市生活者の健康飲料志向が高まりつつある

### 主な課題

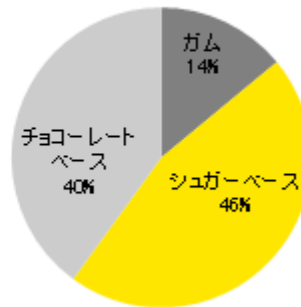
- ▶ 新規参入企業にとって、かなり高いオペレーティングコストやエントリーコストを要する。また、ブランド力の重要性は極めて高く、これらは障害となっている

## 菓子市場

菓子市場の予測(10億ルピー)



インドの菓子市場の種類別シェア



- ▶ インドの菓子市場は870億ルピーで、年平均成長率 17%と見込まれている
- ▶ 市場は非常に競争が激しく、このセグメントの主要プレイヤーは以下の通り
  - 国内: Amul, ITC, Parle
  - 外国: Mondelez (Cadbury), Nestle, Hershey's

### 新たな傾向

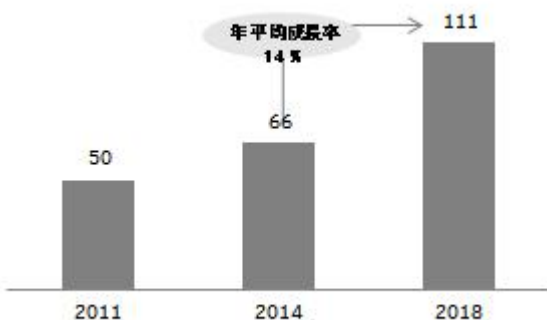
- ▶ 未包装キャンディーから、ブランド菓子への嗜好が高まりつつある
- ▶ 大人の消費者はプレミアムチョコレートを好む傾向

### 課題

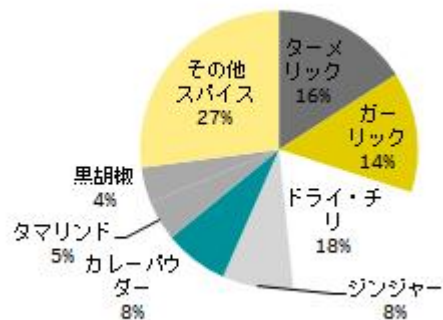
- ▶ 菓子は一般的に店内で適切な販促を行っているとは言えず、売り方に工夫の余地
- ▶ 輸入品に対する厳格なFSSAI(食品安全基準管理局)規制
- ▶ 小売マージンが低いいため、製品の販促費用が減退する傾向

## 調味料市場

加工食品市場の予測(10億ルピー)



インド調味料市場の種類別割合



\*Covers only branded spices

- ▶ インドの調味料市場は660億ルピーで年平均成長率14%と見込まれている
- ▶ 多くの地場企業がひしめき合い、市場は高度に分散
- ▶ インドの加工調味料市場の主要プレイヤー(下表参照)

会社名	ブランド名
Mahashian Di Hatti Limited	MDH
S Narendrakumar & Co	Everest
Mavalli Tiffin Room	MTR
Jhaveri Industries	Badshah
Dharampal Satyapal Group	Catch
Desai Brothers Ltd.	Mother's Recipe

会社名	ブランド名
Ushodaya Enterprises Pvt Ltd.	Priya
ITC Ltd.	Aashirvaad
Eastern Condiments Pvt Ltd	Eastern
Krishna Chandra Datta (Spice) Pvt Ltd.	Cookme
Bawa Masala Co.	BMD

## コメント

モディ首相は8月15日の独立記念日の演説の中で、いくつかの数字をあげました。まず12億5千万人の団結を促し、「チーム・インド」で独立75周年の2022年へ向けての展望を示しました。次にこの1年で20万の学校に42万5千のトイレを設置してきましたが、より一層充実させることを目標に掲げました。また貧困層にも1億7千万の銀行口座を開設し、金融サービスを受けられるようになったことを強調し、さらなる拡充を目指しています。そしてこの2ヵ月半の間に報告のあったブラックマネーは6億5千万ルピーにも上り、ブラックマネー法の成果を強調しました。さらに今後1,000日間で電気のない18,500の農村に電気を行き渡らせるという計画を示しました。世界経済は混迷を深め、インドのねじれ国会は牛歩の如く、政治の停滞が続いていますが、インドの複数の成長エンジンは衰えることはありません。EYインドは海図なき航海にあって針路を示す羅針盤を提供すべく、研鑽を重ねるとともに、クライアントサービスの向上に努めています。

### Disclaimer

尚、当ニュースレターの内容に関し、原文上の誤謬、誤訳を含む不備に伴う金銭的または非金銭的損害につきましては、インド及びその他のアーンストアンドヤングは一切の責任を負いかねますことご了承ください。